

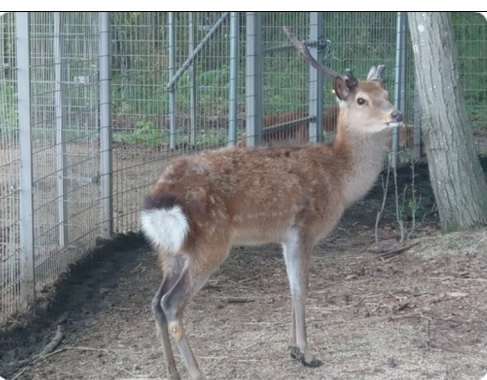
みなしご通信



鹿3匹が仲間入り 運命の二郎

愛媛県伊予市栗の里公園で増えてしまった鹿を殺処分するのではなく飼える人に譲渡する…という考えをした伊予市に感謝の気持ちもあり、私にも鹿1匹ぐらいは育てられるんじゃないかと引き取る気満々で見に行きました。鹿が居る場所は傾斜地でええ感じでした。ごはんの時間でもない時に行ったので40匹弱の鹿は全員崖の上(笑)呼んでもなかなか下りて来てくれず。

でも1匹の気のいい長老のオス鹿が下りて来てくれました。栗の里のオス鹿は去年全員去勢されていますが成獣になってから去勢したため発情期が近づくとツノが不ぞろいに生えてきたそうでそのツノが来年も生えるかどうかは未知です。UPAは小さい時に去勢し



たからツノはいっそ生えなけれどパンくんはツノが3センチぐらい生えた時に去勢したから今以上伸びもせず落ちもせず生涯このままかな…これも未知。気のいいオス鹿は耳票に2番と書いてあったので「二郎くん」と勝手に呼び、販売しているオヤツや職員さんが用意してくれた青草を与えました。結局、1匹ではなく3匹連れて帰る事にしました。そして伊予市にランドム

てはこのツノが来年どう生えるのかも楽しみ♪メス2匹はずっと一緒に歩いていきます。オス鹿は隣のドックランにいるマサケン兄弟やユキたち犬のことが気になる模様。栗の里公園鹿牧場には犬はいないもね。

「オスの耳票を見てみんさい！」…と言うのも今回の捕獲時に伊予市の渡邊さんが一番最初に捕まった鹿を見て「あ！二郎じゃ！中谷さん！二郎ですよ」と言っていたのですが私はその子を見て『いやいや二郎はもつと年寄りっぽい』と思っただけです。でも耳票を見てみ！間違いない！2番じゃ！二郎じゃ！と喜びまくる《運転手T》。私はすぐに伊予市に電話。『耳票番号が2番だったから渡邊さんの言う通りあの子は二郎でした♪』「そ〜でしよ！僕は捕まった姿を見て二郎は中谷さんのとこに行きたかったんやなあ、中谷さんを待ったんやなあと思うたんですよ」。



「そ〜なんか二郎、すごい縁じゃ。あの群れの中から一番最初に無作為に捕まえた子が二郎だったなんてね：仲間と一緒に我が家に来てくれたんじゃね、ようこそ♪あと、今回伊予の鹿3匹が来てくれたことでUPAが他の鹿と比べてダンゼンデカいことがわかり内心ホッとなりました。ガゼン自信を持った私は広島本部にいる車椅子のパンくんも含めうちの鹿たちに美味しいものをたくさん食べさせてみんなを大きく育てたい！という夢に向かいます♪

猫と同じようにこたつに頭から入って昼寝をして目が覚めたらいつの間にか私

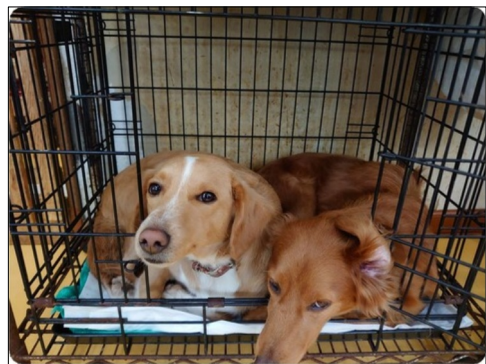
咬む理由あり
犬でも猫でも咬む子は

ますが気の迷いで咬むわけではなく必ず理由があると思っています。そもそも人間とは違う生き物なのに擬人化させて人間に合わせる人間と同じように生きろ！と言うほうが無理だと私は思うのです。咬みつき猫ってことでうちに来たアメちゃん。引き取ってすぐうちのセオクミを咬みましたが『未去勢だから気が立ったんじゃないやろ！』ということですが、去勢手術。その後は誰も咬まれておらず咬みそうな雰囲気もありません。え感じで暮らしています。

の隣にアメちゃんがいいたので、急に手を動かさずなど刺激を与えず大きな息をしたりしてそろそろ中谷は起きるかも…をかもし出しながら寝ていたアメちゃんが起きてくれるのを待ちました。すると特に何も問題なく私はこたつの下から出て行くことができました。うちにはたくさんの咬みつき動物が来ますがみんなうちで生活して咬まなくなっています。それは私たちが《余計なことをしないから》ただそれだけです。

災害大国だから

うちでは犬には災害時の避難のためにケージレストを教え込んでいます。教え込むって、そんなたいそうな(笑)①犬をケージに入れて扉を閉めてから②『お利口さん』とホメて美味いおやつを与えるだけです。たったそれだけでケージが好きな子になり避難所生活でのストレスも減るし避難所で他人から愛犬が嫌われることもなくなります。



犬猫みなしご救援隊では《空きケージ》を点在させていていつでもご自由にしています。皆さまの愛犬ちゃんにもぜひケージレストを《教え込んでください》①と②の順番を間違えないでくださいね！あらかじめケージ内におやつを入れといて犬をケージに入れて扉を閉めたらそれは詐欺ですよ！詐欺！私が犬だつたら『おやつで騙したな！』と咬みつきます。日本は災害大国。いつでも災害に遭うと思ってください。

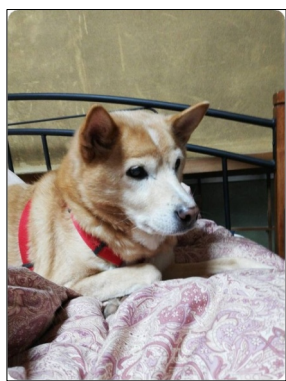
側溝の思い出

福島県富岡町の6号線沿いにしまむらがあり201

1年4月の始めごろからその一帯は犬が集まる《犬銀座》になっていました。あの時姿は見えないけれど犬の鳴き声をしてその鳴き声は明らかに私の声に反応していました。耳をすますと声は道路脇の側溝から聞こえます。側溝のフタを取ってみるといました！薄茶色の中型雑種が。捕まえようとすると逃げ、追いかけて追いかけて御用。付けた名前はもちろん《側溝くん》飼い主は見つかりましたがその時点ではもう千葉県の預かりさん宅に行っていたしそのままがいいだろうと正式譲渡になりました。その後《側溝くん》のいぬ親さんとはちよこちよ連絡を取っていて彼は《早くと》という名前でそれはそれは可愛がられて暮らしていました。

あれから10年が経った2021年6月19日千葉のいぬ親さんが見守る中、安らかに旅立ったそうです。地震が起きた時、元の飼い主さんは《側溝くん》と散

歩中で這うようにして自宅に帰ったそうです。富岡にいたころはてんかん発作があつて投薬もしていたそうです。千葉のいぬ親さんが言うには最後の5年ぐらいは発作はゼロになったんだそう。10年後に今生の別れが来るとは思いもせず富岡の《犬銀座》を毎日走った私たち。田原さんに『側溝くんが今朝死んだよ』と言うと「そうか、よく生きてくれたのうよかつたじゃないか！あんとき追いかけてよかつたのう」と言いました。そうね。私はお前を助けたかつたんよ、じゃけん走ったんよ。私に捕まってくれてありがとう！じゃあまた会おう！合掌。



本紙は中谷百里代表ブログ「みなしご庵へようこそ」の記事を抜粋したものです。

ソフトバンクの「がざして募金」、ジャパングビンで寄付ができます。
<https://japangiving.jp/supports/1281> 皆さまからのご支援、よろしくお願いたします。



みなしご通信のバックナンバーは、公式ページ
<http://www.minashigo.jp/newpaper/index.html>に掲載しております。

NPO法人(特定非営利活動法人)
犬猫みなしご救援隊
www.minashigo.jp

犬猫みなしご救援隊
 〒731-0234
 広島県広島市安佐北区可部町大字今井田690-2
 TEL : 082-812-3745 FAX : 082-815-2711